

氏名	星野 純子	部署	看護学科	職名	准教授
研究分野	在宅看護学、緩和ケア				
学位	修士(人間福祉学)				
学歴	1987年埼玉県立衛生短期大学第1看護学科卒業、1988年同地域看護学専攻修了、2018年聖学院大学大学院人間福祉学研究科修士課程修了				
経歴	1999年埼玉県立大学短期大学部看護学科助手、2005年埼玉県立大学保健医療福祉学部看護学科講師、2006年埼玉県立大学地域産学連携センター認定看護師教育課程(緩和ケアコース)専任教員兼務、2018年埼玉県立大学保健医療福祉学部看護学科准教授				
所属学会(役職)	日本看護科学学会、日本がん看護学会、日本緩和医療学会、日本在宅ケア学会、日本看護教育学会、日本看護管理学会				

【2018年度実績】

1. 研究業績					
	著作・論文・学会発表等の名称	単著・共著の別	(1)発行所、全ページ数 (2)雑誌名、巻(号)、開始-終了ページ (3)学会名、開催都市	(1)(2)著者、編者名 (3)発表者(発表者は○印)	発行・発表年月
(1) 著作					
1	認定看護分野Q&A 緩和ケア編 スピリチュアルケア	単著	看護技術,64(9),93-95	○星野純子	2018.8
(2) 論文					
	該当なし				
(3) 学会発表					
1	埼玉県内の訪問看護ステーションにおける在宅看取りの課題	共著	第38回日本看護科学学会学術集会	○山口乃生子,會田みゆき,星野純子,田上豊	2018.12
2	A大学卒業生による保健師基礎教育の評価(第1報)	共著	第7回日本公衆衛生看護学会学術集会	○黒田真由美,澤登智子,星野純子,櫻田淳,田上豊	2019.1
3	A大学卒業生による保健師基礎教育の評価(第2報)	共著	第7回日本公衆衛生看護学会学術集会	○澤登智子,黒田真由美,星野純子,櫻田淳,田上豊	2019.1
4	訪問看護師が終末期がん患者を看取る家族とケアリングを形成していくプロセス	単著	第33回日本がん看護学会学術集会	○星野純子	2019.2
5	住み慣れた地域で最期まで自分らしく生きるための支えあい健康教育-デリバリー型緩和ケアスクール・サロンを活用して-	共著	第33回日本がん看護学会学術集会	○筑後幸恵,星野純子	2019.2
(4) その他					
1	該当なし				
2. 競争的資金等の研究					
	競争的資金等の名称	研究名、研究代表者・研究分担者の別			研究期間
1	文部科学省・日本学術振興会科学研究費補助金(基盤研究C)	地域包括緩和ケアの充実に向けた家族への教育支援プログラムの開発(研究代表者)			2017.4~2020.3
3. 教育業績					
	講義・演習・実習・論文指導等の名称	期間	概要(教育内容・方法等において工夫した点)		
(1) 講義					
1	在宅看護学	2018.4~8	3年次生を対象に、在宅での看護がイメージできるように、事例や映像を取り入れながら教授した。また看護過程の演習ノートを担当教員で作成し活用した。		
3	がん看護	2018.10月	4年次生を対象に、がん患者に特有な症状に対する緩和方法について教授した。特に、患者主体の症状マネジメントへの理解が深まるように事例を織り交ぜる工夫をした。		
4	スタートアップセミナー	2018.4~7	学部1年次生全員を対象に、初年次教育として携わった。ペアワークやPBLを取り入れた。		
5	認定看護師教育課程:緩和ケア総論	2018.9~10	緩和ケア認定看護師を目指す受講生が自身の「緩和ケアの原点」を認識できること、さらには受講生同士が共有できるよう、発表の機会を設けた。		

6	認定看護師教育課程: 症状マネジメント総論	2018.9	看護師が実践する緩和ケアにおいて、もっとも重要な症状緩和の基本である患者主体の症状マネジメント理論が理解できるよう、事例を活用した。	
7	認定看護師教育課程: 喪失・悲嘆・死別	2018.10月	喪失・悲嘆・死別の基本的知識が理解できるよう教授した。さらに、看護師が抱える悲嘆についても振り返る機会を作った。	
8	認定看護師教育課程: 緩和ケアにおける家族・遺族ケア	2018.11	緩和ケアの対象である家族・遺族をとらえ、家族の持つ強みを生かしたケアが展開できるよう教授した。	
9	認定看護師教育課程: 相談	2018.12	コンサルテーション計画が立案できるよう事例を用いて教授した。	
(2) 演習				
1	認定看護師教育課程: 症状マネジメント演習	2018.9～12	がん患者に多い消化器・呼吸器・精神症状・倦怠感の4つの事例を看護展開する演習を行った。全人的・包括的にアセスメントができるよう、グループワーク、個人ワークを取り入れる工夫をした。また、個別指導も行った。	
2	認定看護師教育課程: 総合演習	2018.9～12	緩和ケアの必須の技術であるコミュニケーションについて、自身のコミュニケーションスタイルを振り返られるよう、プロセスレコードや模擬患者を用いた演習を行う工夫をした。	
3	認定看護師教育課程: ケースセミナー演習	2018.2～3	15名の受講生を担当し、6週間の学びをケースセミナーとしてまとめられるよう、個別指導を行った。さらに受講生同士がサポートしあえる環境を整えることで、15名全員が発表までできた。	
(3) 実習				
1	公衆衛生看護看護学実習	2018.5～6	公衆衛生看護学系4年次生を対象に、保健所・保健センター・産業・学校にて臨地実習指導を行った。積極的な実習姿勢や地区診断のプレゼンテーションに対し、指導者から高く評価された。	
2	総合実習	2018.7～8	在宅領域を希望する4年次学生に対し、自己の目標が達成できるように訪問看護ステーションを選定した。一人の事例に複数回訪問できるように指導者と連携しながら調整し、学びをサポートした。	
3	認定看護師教育課程: 認定看護実習	2019.1～2	15名の受講生を担当し、緩和ケア病棟・緩和ケアチーム・訪問看護ステーションでの6週間の臨地実習指導を行った。緩和ケアの視点をいかした看護過程の展開ができるよう、記録指導を丁寧に行った。また、経験者であるがゆえに抱える葛藤に対峙できるよう精神的支援を行った結果、14名が単位を修得できた。また、1名は2週間の再実習となり、指導者との綿密な連携および個別指導を丁寧に行った結果、単位修得できた。	
(4) 論文指導				
1	学士課程: 卒業研究	2018.4～2019.1	主指導: 3名	
(5) その他				
1	編入3年生への相談指導	2018.4～2019.3	20名の編入3年生を担当した。定期面接以外にも選考試験後の精神的支援や就職	
2	認定看護師教育課程の受講生への相談指導	2018.8～2019.3	30名のうち16名を担当し、随時面接しながら短期間の研修が実りあるようにサポートした。	
3	認定看護師教育課程の修了生へのフォローアップ	2018.4～2019.3	認定看護師活動における悩みに対する相談やキャリア支援、研究指導を行った。また、更新審査の自己研鑽ポイントとなるフォローアップ研修会を開催した。	
4. 社会貢献活動				
(1) 講演会、研修会等の講師				
	講演会、研修会等の名称	主催	講演、研修等のテーマ	開催年月
1	認定看護師教育課程緩和ケアコース(専門職公開講座)	埼玉県立大学	緩和ケア認定看護師教育	2018.8～2019.3
2	認定看護師フォローアップ研修	埼玉県立大学	CNSから学ぶ緩和ケア、認定更新審査のポイント	2018.9、2019.3
3	看護学生実習指導者講習会	埼玉県看護協会	在宅看護学実習の展開	2018.6
4	訪問看護師スキルアップ講座	埼玉県立大学	在宅での創傷ケア	2018.10月
5	一般市民公開講座 緩和ケアを学ぶ	埼玉県立大学	がんになっても自分らしく生きよう!～元気な家族、仲間がいるために～	2018.10月
6	埼玉県看護協会一般研修<領域別>	埼玉県看護協会	エンド・オブ・ライフケア	2018.12
(2) 国、自治体、財団法人等における委員等				
	国、自治体、財団法人等の名称	委員等の名称	任期	
1	埼玉県看護協会	地区理事	2016～現在	
2	埼玉県在宅を支える認定看護師会	顧問	2011～現在	
(3) ジャーナリズムでの発言				
	メディア等の名称	内容	年月	
	該当なし			

5. 学内運営(委員会委員)		
1	倫理委員 委員	
2	男女共同参画推進委員会 相談員(介護関係)	
3	認定看護師教育課程専門部会 委員	
6. 受賞(研究、教育、社会貢献活動に関するもの)		
	受賞名	主催
1	該当なし	
7. 特許の保有状況		
	特許名	特許番号
1	該当なし	
8. 特記事項		
1	該当なし	